令和元年７月２９日

活躍する大村部隊隊員

１　はじめに

先回のメッセージが、駐屯地創立記念行事ですので、だいぶ期間があきました。

先月は長期演習があり不在にすることが多く、メッセージの作成も滞ってしまいました。

今回は、その間における演習等での隊員の活躍について紹介します。

２　６月の長期演習

先月の演習は、２～３週間にわたる久しぶりの長期演習でした。にもかかわらず隊員らの士気は高く、とてもよくやってくれました。北部九州の第４師団長が統裁する訓練でしたが、第１６普通科連隊と第４施設大隊が、最も長期にわたり演習に参加しました。部隊によっては、５日程度で終了した部隊もありましたが、大村部隊の隊員は何一つ不平・不満を言わず、やるべきことを黙々と取り組んでいました。

訓練は、防御という課目で、演習場に隊員が隠れるための穴を幾つも掘ります。穴の上には木材を組み、土を被せて蓋をして、ちょっとやそっとでは壊れない陣地を作ります。重機も使いますが、エンピ（スコップのこと）を使う手彫りも殆どです。工事は行動を秘匿するため、夜間暗い中で行います。普段と違う生活リズムですから、眠い中での作業となります。それでも、黙々と取り組みました。

訓練の内容は、とても厳しいものでしたが、よくやってくれました。訓練を指導した師団長（上級部隊の指揮官）からも、隊員に対するお褒めの言葉がありました。

長期演習にも真摯に一所懸命に取り組む隊員は、大村部隊の誇りです。

２　派遣海賊対処行動支援隊任務完遂

令和元年７月２２日（月）、アフリカのジブチ共和国において「派遣海賊対処行動支援隊」に参加していた６２名の大村駐屯地の隊員が、任務を完遂し帰国しました。

隊員らは、平成３１年１月２３日（水）の第１次派遣隊から帰国までの約半年間が海外での任務で、平成から令和への移行も国外でした。

派遣間の隊員の活動は、海賊対処にあたる海上自衛隊の航空機が駐機する基地の警備を主担任とする警備隊の他、司令部、業務隊といった部署での業務が主な活動です。

また、他国軍との連携や交流も積極的に行い、サッカーの交流試合をする等、親睦を深め、良好な関係を築くことで業務の調整も円滑に行われています。

居住環境はプレハブの建物で、ｗｉｆｉステーションもあり、国内との通信も出来る環境です。日本と現地は６時間の時間差があるため、現地の業務終了後、夜に連絡しようとすると日本は深夜又は早朝となります。メールなどの家族のメッセージも時間差で受け取っていた隊員もいるかもしれません。

任務を完遂して帰国した際は、出国時よりも頼もしい顔つきになっていました。今回の経験が、一回りも二回りも成長させたのでしょう。一時の休養期間を経た後の、彼らの活躍が楽しみです。

第16普通科連隊長兼大村駐屯地司令

1等陸佐　南野　延寿